

2024年4月4日（木）立憲民主党 子ども・若者応援本部／ジェンダー平等推進本部 合同会議 資料

SRHR（性と生殖に関する健康と権利）について フランスの先進事例視察報告と 日本への提言

NPO法人女性医療ネットワーク
宋美玄 池田裕美枝

協力・サポート：社会調査支援機構チキラボ

日程

9日	FIGO 参加 パリ在住日本人ジャーナリストと情報交換
10日	FIGO 参加 薬局訪問
11日	FIGO 参加 FNSF (Federation Nationale des Sourds de France)訪問
12日	パリ在住社会学者&エデュケーターと情報交換 Maison de Solenn 訪問
13日	国連見学 WHO 訪問
(7日)	Foundation Le Refuse オンライン面談

FIGO2023 @Paris 会長公演



- **3C: COVID, Conflict (紛争), Climate Change(気候変動)**
- 困難下にある女性・人々は、遠い国の誰かではなく、あなたの患者さんかもしれない
- **3Cs**に対して、我々産婦人科医師は科学の立場からアドボケイト（権利擁護）していく

- いかにして、「中絶」「避妊」「出産」の無償化を進めているか

パリ在住
ジャーナリスト
との情報交換

高崎順子さん
&
ジョフロワ江美さん

- 65%皆保険、残り35%は個々の保険により償還
- 18歳以上は、償還カードが個人発行されるために身内バレしない
- 中絶や避妊は別の救済保険で公費負担
- 緊急避妊薬は薬局にて処方箋なしで購入可能 & 25歳以下で無料

■ いかにして、DV被害から、支援に繋げていくか

FNSF
(DV電話相談
アソシエーション)
オーロール・ルシャ
さん

- 1992年～共通番号3919で相談を受ける公的機関
- 個別介入はしないで地域のアソシエーションを紹介
- 回復するのは本人の役割という位置付け
- 相談電話が少ない地域をカウント
- 女性デーなどを設けてキャンペーンすると電話件数は激増

■ いかにして、虐待対策を前進させていくか

パリ在住社会学者 &
エドゥケーターと
情報交換

安發 明子さん
&
パボさん

- 「虐待」ではなく「心配」な状況から介入
- 通告があると**3ヶ月間**の自宅訪問アセスメント
→こども専門裁判官による介入の決定
- エドゥケーターと家庭支援専門員による家庭まるごと支援
- エドゥケーター資格は実習を含む**3年間**の履修課程と試験
- 夜廻りエドゥケーター、ネットエドゥケーターも行政の常勤職員

- いかにして、「性の自己決定権」へのアクセスを向上させるか
 - 性的健康は公衆衛生の中心的な目的
 - パリ市内に**24**箇所（パリ市直営**6** パリ市立病院**8** プランニングファミリーアル**10**）
 - 年齢・性別問わず匿名・無償で利用可
 - 未成年も保護者の同意なく利用可（場合によって立会人要）
 - 避妊、中絶、性機能障害、**HIV**と性感染症早期発見と予防、ボディイメージ、ジェンダーアイデンティティ、暴力と差別の根絶**etc..**

性的健康 センター

■ いかにして、子どものメンタルヘルスを向上させるか

Maison de
Solenn
マリー・ローズ・
モロー
精神科医師

- 若者のメンタルヘルスをサポートする公的機関
- 精神科医師、心理士、ソーシャルワーカーが駐在
- **11-18歳**の若者は平日**10-17時**まで予約不要、匿名、無料でカウンセリングが受けられる
- 電話相談、通所、入院も可能
- 通所施設はパリ市内に**11ヶ所**
- 音楽、アート、運動、料理、ラジオ番組作り
etc...

■ いかにして、性的マイノリティの安全を守るか

Fondation
Le Refuse
エドワード・
ジョワノー・テイラー
さん

- 18-25歳までの、親から拒絶された性的マイノリティを支援する民間団体
- 運営費の7割が企業からの寄付 45名の常勤スタッフ
- 20年間で8000名が利用
- 心理サポート＋住居支援＋学費支援
- 年間7000名が住居を求めて連絡してくるが、運営している住居は200名ぶんのみ
- 同性婚をはじめ、法律が性的マイノリティの権利を擁護しているからといって、現実の全てがそうとは限らない(どの宗教・階層の家庭でも差別はある)

研修からの 5つの提言

1. 避妊・中絶についての環境改善
2. 包括的性教育&性的同意教育
3. 思春期精神保健センターの充実
4. **Transgender and gender diverse (TGD) 支援**
5. **Sexual Reproductive Health and Rights : SRHRを日本から世界へ**

1. 避妊と中絶 の環境改善

- 若年者が周囲の大人からプライバシーを守って安全に避妊できる環境整備
- 配偶者同意要件の撤廃
- 貧困対策としての避妊・中絶公費負担
 - 日本市民対象の調査でも**7～8割**が避妊・中絶公費負担に賛成
 - 日本の産婦人科医師の約**7割**も避妊・中絶公費負担に賛成

2. 包括的性教育 & 性的同意教育

- すべての子どもにも人権・自己表現・建設的対話に関する学びの機会を
- カリキュラム外での環境が肝
- 学力とともに、心理、社会面の育成にも多様な教育環境を

3.思春期精神保健 センターの充実

- 日本版**Maison de Solenn**設立
- 思春期の子ども、精神保健の専門家へのアクセスを改善（児童精神専門家の増員）
- 家庭のほかに、社会的関わりの中での心理ケア

4. Transgender and gender diverse (TGD) 支援

- 日本版性的健康センターの設置
- 性に関する相談機関の数&アクセスの拡充
- 性的マイノリティの心理・社会・経済的支援

5.SRHRを 日本から世界へ

- 日本での内服中絶薬承認、性的同意年齢引き上げ等の世界に対するインパクト
- 人口減少のすすむアジア先進国での**SRHR**のあり方について、もっと議論を